

新まれた歴史に酔う。



半田赤レンガ建物

HANDA RED BRICK BUILDING

積み重なったレンガと、屋根をシンプルに表現。橋のように見えるデザインは、半田と人をつなげる架け橋になればという願いが込められています。

明治時代に建てられ、レンガ建造物として国内屈指の規模を誇る、国の登録有形文化財・半田赤レンガ建物。パリ万博で金牌を受賞した「幻の味」ともいわれるカブトビールと共に、いま時を越えてよみがえります。

人々が交流し、歴史とふれあう場として、知多半島の新しいランドマークとなり、市民のみなさんをはじめ多くの方々に愛されることを目指します。

半田赤レンガ建物が、常時公開の観光施設として、7月18日(土)にオープンします。

半田赤レンガ建物 7月18日オープン！



handa
spirits

「半田赤レンガ建物」、 「ものづくり」への情熱がここに集う。

半田には「ものづくり」の魂が息づいています。

醸造業、山車のからくり文化など、職人が支える歴史深い「ものづくり」と共にあるまちです。

そんな半田を100年以上見守り続ける、「半田赤レンガ建物」。

明治31年、当時の建築界三巨匠の一人・妻木頼黄の設計により、「カブトビール」の醸造工場として建設されました。その重厚な佇まいは、日本のビール黎明期、大手4大ビールメーカー（サッポロ、アサヒ、麒麟、エビス）に果敢に挑戦した先人たちの志と技術力を物語っています。半田の地に根付いた「ものづくり」の精神を、未来へ伝えていく存在へ。

さあ、「半田赤レンガ建物」の新たな歴史の幕開けです。

